

都民のみなさんへ アピール

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい 教育のつどい2009」成功のために
みんなで力をあわせて、どの子ども大切に作る教育をつくりあげましょう

都民のみなさん。保護者のみなさん。教育関係者のみなさん。

私たちは、今夏、「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい 教育のつどい2009」を東京で開催し、どの子ども大切に作る教育や学校、地域のあり方、そして広くは子育てについて、様々な立場から縦横に話し合い、研究しあう場をつくり、全国のみなさんを東京に迎えることを確認し合いました。

いま、子どもと教育をめぐる状況は、教育における「貧困と格差」とまで言われるように極めて深刻な状況になっています。そのような中で、子どもたちは将来に希望が持てず、人間として生きづらくさえなっています。子どもたちの教育を受ける権利を守り、進路を保障するとりくみなど、どの子ども人間として大切にされる教育をすすめるとりくみは、まさに喫緊の課題です。しかし、子育て、教育がかつてなく困難に直面していることも事実です。それは、構造改革の名の下に行われてきた、地方切り捨て、自己責任論による、勝ち組・負け組をつくりだしてきた政治の流れや、社会の動きと切ってもきれないものです。そこに「貧困と格差」生み出した元凶があります。

また、東京では、石原「教育改革」のもと、全国に先がけた改悪教育基本法の具体化がすすめられています。減らされる教育予算、教職員定数、そして行政が教育内容にまで介入する仕組みなど、本来子育てや教育に必要な協力・共同のあり方を根本から覆す動きが強められています。全国で唯一東京だけが少人数学級に踏み出していないことからそれは明らかです。

いま、すべての子どもたちのために、教育関係者をはじめ、すべての大人が何をすべきか、どう力を合わせるべきかが問われています。子どもたちを真ん中に、教育や子育てに関わるみなさん、保護者のみなさん、地域のみなさんが、子どもたちのこと、教育や子育てのことを語り合う

「教育のつどい」という場に、一同に会していただくことを心から呼びかけるものです。

「教育のつどい」は、この間、教職員を中心に開催されてきた「教育研究集会」を、教育や学校づくりの「共同の場」とするために、名称を発展させ、共同を広げて企画・運営をすすめてきました。そして、子どもたちをとりまく実態や、「教育改革」の名の下に実施されている施策が、子どもと教育にどのような影響を及ぼしているのか、子どもたちのすこやかな成長を支える学校づくりはどうあるべきかなど、子どもと教育をめぐる時々の重要な課題について、広く討論・交流をすすめてきました。

この「教育のつどい」を今年8月〔8月21日（金）～23日（日）〕に、東京に迎えます。

2006年12月15日、教育基本法改悪、あの日からすでに3年の月日が経過しました。しかし、教育基本法改悪を許さないとりくみは、「10・14教育基本法改悪反対大集会 in 東京」など、教育についてのかつてない規模の都民的な運動を広げ、わが国の教育運動史上大きな到達点を築きました。それは改悪教育基本法の具体化を許さず、憲法と教育の条理にもとづいた教育をすすめる運動へと確実に継続しています。首都東京が教育基本法改悪反対の狼煙をあげたと同様に、「教育のつどい」を全国に発信し、全国から多くのみなさんを迎えますよう。

私たちは、より広く憲法・子どもの権利条約に根ざした教育を創造するために、東京開催を機に、さらにいっそう教育・子育ての共同を都内各地域で広げるとともに、全国からの参加者を首都東京ならではの共同のとりくみで歓迎したいと考えています。

2009年6月

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい 教育のつどい2009」東京実行委員会
【共同代表】

伊豆 明夫（東京私立学校教職員組合連合中央執行委員長）

伊藤 潤一（東京地方労働組合評議会議長）

大橋美枝子（東京母親大会連絡会委員長）

上 伸子（新日本婦人の会東京都本部会長）

児玉 洋介（東京都教職員組合執行委員長）

白瀬 美弘（東京都障害児学校教職員組合執行委員長）

三上 満（生かそう1947教育基本法・子どもと教育を守る東京連絡会代表世話人）